

歯周外科治療における骨移植を再考する

藤川 謙次 藤川歯科医院 院長

出身大学院：インディアナ大学歯学部 歯周病学

講演抄録

GTR法やエムドゲイン療法が公表される前から失われた歯周組織を取り戻すための歯周組織再生療法の1方法として歯槽骨移植術が広く行われてきています。この術式には切開線の入れ方から縫合に至るまで多くのステップを考慮に入れながら行う必要があるとともに理想的な骨補填材には生体親和性、形状賦形性や形状保持性が必要です。さらに移植材は既存骨および周囲組織に対して組織為害性を示さずに生着し、移植材自らが既存骨周囲に新生骨形成を促進あるいは伝導させる働きを備えながら骨欠損部を補うとともにその支持を維持できるものでなければなりません。現在でもこの分野に対しての数多くの研究がなされ、多くの骨移植材が市販されている中、我が国では数々の規約の下、使用できる移植材に規制がなされているのが現状です。そこで現在、我が国で使用できる骨移植材の特徴を挙げるとともにその効果について文献を交えて検討するとともに、歯周外科手術を行うにあたっての注意点など臨床例を挙げながら、安全で確実性の高い骨移植手術の処置法を報告いたします。